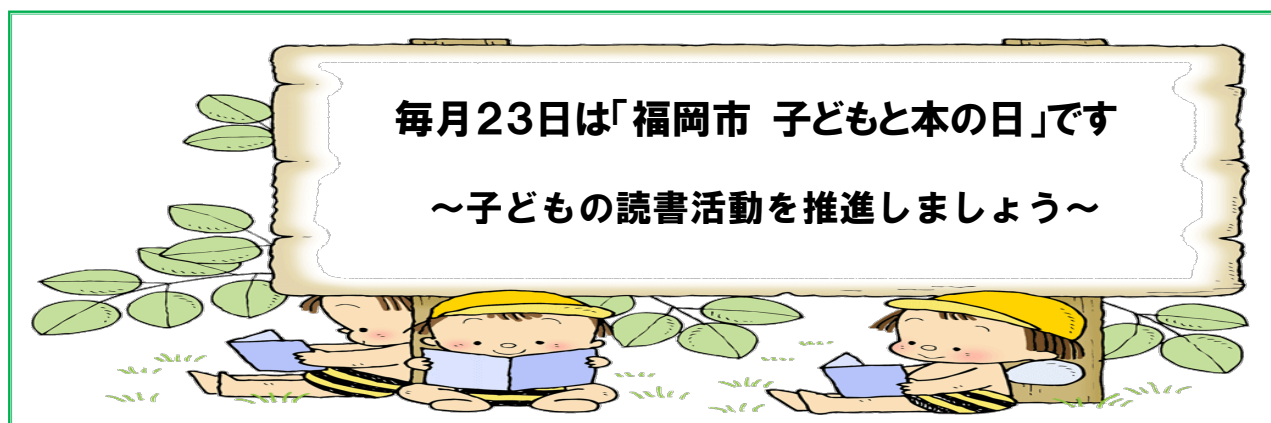




図書館を使った調べる学習コンクール

「図書館を使った調べる学習コンクール」をご存じでしょうか。図書館利用の促進と調べる学習の普及を目的に、公益財団法人 図書館振興財団の主催で開催され、今回で30回目を迎えます。

このコンクールは、公共図書館や学校図書館等を使い『身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることなどを自由なテーマで、見る・聞くなどの体験や実地調査なども取り入れながら、どのように調べていったのか、その結果、何がわかったか』をまとめたものを作品として応募する全国コンクールです。

小学生、中学生、高校生、大人、子どもと大人、の各部門があり、どなたも自由に応募できます。今年の募集期間は9月7日（月）～10月6日（火）となっていますので、夏休みの自由研究などを活用し、挑戦してみてはいかがでしょうか。

図書館を使った調べる学習では、

- 1 テーマを決める 2 図書館で調べる（司書さんにも聞いてみよう）
- 3 もっと調べる 4 書いてまとめる

という4つのステップを通して作品を作成していきます。



また図書館振興財団のHPには、過去の入選作品が、学年別などで検索・閲覧できるようになっています。その作品は、テーマやタイトルのつけ方、調べ方、まとめ方等、今後の調べ学習や自由研究の参考になるものばかりです。

<参考：令和7年度 調べる学習部門 小学生の部（低学年）文部科学大臣賞>

『あおいやま！？ どうしてふじ山はあおいの？』 足立区立 江北小学校 1年 弓田 新
どうして富士山は青いのかにたどり着くため、アンケートで富士山の色のイメージを調べ、実際に海の水の色を確かめ、遠くの景色を観察し、本を読んで、富士山の情報や太陽の光と空気の間係を調べました。

図書館を使って調べるコンクールHP (<https://concours.toshokan.or.jp/work>)

学習に取り組む子ども達、学校の先生や保護者の方々にも、1ヶ月後から始まる夏休みを活用し、みんなで「図書館を使った調べる学習」に取り組んでみませんか。

本の読み方

ある本に「思考力を高めるには、精読と再読が効果的と書いてありました。『精読』と『再読』を調べると

精読・・・細かいところまで、ていねいに読むこと。（熟読に似ている）

再読・・・繰り返し読むこと。

とありました。

本の「読み方」といっても、たくさんの「読み方」があるようです。さまざまな読み方を知り、必要に応じて工夫をすれば、読書の効果もさらに向上するのではないのでしょうか。機会があれば、子ども達にも、さまざまな読み方を伝えられるといいですね。

<色々な読み方>

黙読・・・声に出さずに読むこと。

通読、流し読み・・・始めから終わりまで読み通すこと。目を通すこと。

熟読、精読・・・文章の意味をよく考えながらじっくり読むこと。

音読・・・声を出して文章を読むこと。

唇読・・・声に出さないで、くちびるで読むこと。

速読・・・普通よりも速く読むこと。

遅読・・・普通よりもゆっくり読むこと。

適読・・・摘まみ読むこと。

多読・・・たくさん読むこと。

乱読・・・手当たり次第に読むこと。

共読・・・他人と本を薦め合ったり議論したりすること。

斜め読み、飛ばし読み・・・文章の重要な部分を拾って読むこと。

^{くら}暗読み・・・子どもを寝付かせる時などに真っ暗な部屋で、物語を語り聞かせること。

拾い読み・・・文字を一字ずつたどって読むこと。読める文字だけを読むこと。

モデル児童図書リスト

総合図書館のホームページに、本年度の『モデル児童図書リスト』が、アップされています。幼児、小学1・2年、小学3・4年、小学5・6年を対象に各12冊の本が紹介されています。本選びの参考にしてください。

総合図書館 HP → こども図書館 → モデル児童図書・司書が選ぶ100冊の絵本
<https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/children/>

図書館は、自発的な学びや偶発的な出会いを得られる「無意図的教育の場」であり、「自律的な学びの場」でもあります。子ども達が、好奇心を満たし、自己成長を促すことができる図書館との出会いを大人が意識して作りたいものです。

<須藤>

...



7月のことと人

7月20日 月面着陸の日

1969年のこの日、7月16日に打ち上げられたアメリカ有人宇宙飛行船「アポロ11号」が月面に着陸し、人類が初めて月面に降り立った。月面に降り立ったニール・アームストロング船長は「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍である」とのメッセージを地球に送りました。

7月31日

ハリー・ポッターの誕生日

映画『ハリー・ポッター』シリーズで、主人公ハリー・ポッターの誕生日が1980年7月31日の設定になっていることから、シリーズの配給元である映画会社が制定。2024年に、日本記念日協会に認定・登録されました。

やつか すみこ
八束 澄子

(1950.7.3～)

広島県生まれ。児童文学作家。ミュンヘン国際児童図書館が刊行する国際推薦児童図書目録「ホワイト・レイプンズ」に、2017年に『明日のひこうき雲』、2021年に『団地のコトリ』が選定されました。「ホワイト・レイプンズ」は、世界の優れた児童書を多くの国の子どもたちに読んでもらうことを目的に作成されるリストで、各国の児童書関係者から高い評価と注目を集めているものです。

ジーン・ウェブスター

(1876.7.24～1916.6.11)

アメリカ生まれ。作家。1912年に発表された『あしながおじさん』が有名です。彼女の著書は、活発な女性を主人公にし、現代の読者にとっても親しみやすく、読んでいて楽しいものになっています。日本では1933年に、遠藤寿子訳として、岩波書店から出版されました。

ヘレン・ビアトリス・ポター
(1866.7.28～1943.12.22)

イギリス生まれ。絵本作家。遊び相手も少ない孤独な環境で育ち、教育は家庭で行われ生涯学校に通うことはなかったそうです。幼いころから絵を描くことを好み、多くのスケッチを残しています。絵本作家としての原点である1902年に出版された『ピーターラビットのおはなし』は、家庭教師をしていた時の子どもに描いて送った手紙が元になっています。

にいみ なんきち
新美 南吉

(1913.7.30～1943.3.22)

愛知県生まれ。の児童文学作家。雑誌『赤い鳥』出身の作家の一人であり、代表作の『ごん狐』(1932年)はこの雑誌に掲載されました。結核により29歳で亡くなったため、作品数は多くありませんが、『ごん狐』は小学校の国語教科書に継続的に採用されており、現在でも、一定数の知名度を持っています。

図書館員のひみつの本棚 第 242 回

今月は動物が活躍するおはなしです。

『おしゃべりねずみゴル・ゴーン・ゾラ』

小森 香折／作 平澤 朋子／絵 偕成社 2025 年 ¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★★ 小高学年★★☆ 中学生★★☆
高校★★☆ 一般★★☆ (★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

にんげんのことばを話せるねずみ、ゴルとゴーンとゾラの三兄弟が大活躍するお話です。この本には、お話が三つ収められています。その中の一つをご紹介しますと・・・

三百種類以上のチーズがあるお店に、他のねずみと同じようにチーズが大好きな兄弟、なかでも一番のくいしんぼのゴルが忍び込みます。お店の新人の青年が困っていたところ、ゴルは青年に見つからないよう“神の声”というかたちをとってアドバイスすることで、何とか青年の窮地を救います。

にんげんに見つかれば目の敵にされるのに、どのお話でも困っているにんげんを助けようと奮闘する気のいいねずみたちです。三兄弟の活躍を一緒にドキドキしながら楽しんでください。

<子どもに手渡す時のポイント>

まず、何より表紙がこのお話をとてもよく表現してくれていると思います。ゴル、ゴーン、ゾラの三匹のねずみのそれぞれの個性がユーモラスに表現されていて親しみやすく、このお話の世界へいざなってくれています。お話の途中で出てくるお屋敷も、このねずみたちが大好きなチーズも、しっかり表紙に描かれていて、このお話の世界観を感じさせ、ものがたりの行方を想像しながらおはなしの世界に入りやすくなっています。

低学年でも、おうちのひとが読んであげることによって楽しめるでしょう。全国学校図書館協議会選定図書となっています。

また、このねずみ三兄弟たちのお父さんパルメザンが活躍するシリーズもあります。



このコーナーで紹介した本は、お近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。